

宮崎県の雑草イネの防除

雑草イネの根絶には除草剤3剤体系を基本とし、最低3年間の継続が必要

背景・目的

- 雑草イネは赤米で、脱粒しやすく繁殖が旺盛であるため、防除は容易ではありません。
- 2016年に児湯地域で発生を確認し、異品種混入の恐れがあることから対策が必要です。
- 農研機構の雑草イネ防除マニュアルでは除草剤3剤体系が有効となっています。
- 宮崎県の早期水稻においても、同様の防除効果が得られるか検討しました。

成果の内容

- 前年発生程度が無～微では、E乳＋M粒の2剤体系で防除可能と示唆されます（表1）。
- 前年発生程度が少の場合の2剤体系や多以上の3剤体系では残草が見られます（表1、3）。
- 雑草イネの初発生が多以上の場合、3～4年継続で対策が必要です（表2）。
- 雑草イネの防除は3剤体系が基本で、3年以上継続する必要があります。

表1 前年度発生程度及び薬剤体系別現地の発生状況（2022年）

2021年度 発生程度	薬剤体系	面積別2022年度発生程度(a)		
		無	微	少
無～微	E乳＋M粒	626		10
	E乳＋M粒＋Rジャンボ	49		
少	W粒＋Fジャンボ		31	
	W粒＋N粒、S乳＋Aジャンボ	44		
多	E乳＋Aジャンボ＋Rジャンボ			70
甚	D乳（S乳）＋Aジャンボ＋Rジャンボ			39

E: エリジャン、M: マキシール、R: レブラス、W: ワンオール、F: フルイニング
N: ナイスミドル、S: シング、A: アバンティ、D: デルカット

表2 雑草イネ派生程度別現地ほ場数の推移

初発確認年度 及び発生程度	対策 年数	発生程度			
		無	微～少	中	多以上
2018	1年目	8	20	8	0
	2年目	28	7	0	1
	3年目	28	8	0	0
	4年目	36	0	0	0
多発生以上	1年目	0	2	0	6
	2年目	1	6	0	1
	3年目	8	0	0	0
2019	1年目	27	48	2	0
	2年目	75	2	0	0
	3年目	77	0	0	0
	4年目	77	0	0	0
少発生以下	1年目	19	34	0	0
	2年目	52	1	0	0
	3年目	53	0	0	0

表3 雑草イネの防除体系

時期	水稻	雑草イネ	防除体系	タイミング (目安)
3月	上 耕起	出芽始期	←非選択性除草剤散布	耕起前・出芽確認後
	中 代かき	入水後 出芽始期	←耕起 ←代かき1回目 ←代かき2回目	代かき2回目の7日程度前 移植3～5日前 移植日と同日
	下 移植		←初期剤	(移植直後または移植同時)
4月	上	出芽盛期		
	中		←初中期一発剤	前回処理の7～10日後
	下	出芽終期	←中後期剤	前回処理の7～10日後
5月			←機械または手取り除草	取りこぼし・後発生確認後
6月	出穂期	出穂期	←手取り除草	出穂確認後
7月	成熟期	籾脱粒		
8月～		ひこばえ発生	←耕耘	稲収穫後
		落下籾出芽	←非選択性除草剤散布	出芽確認後

成果の活用方法(又は期待される効果)

- 県内の雑草イネ発生地域で雑草イネ防除対策マニュアルに活用できます。

留意点

- 児湯地域の水田における結果です。